

2018年

1月号

農林水産省  
北海道農政事務所  
北見地域拠点

# ず～むあっぴ☆ オホーツク

カーリングの街 北見市

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

## 滝上町の「ハッカ」を紹介します。

### 収穫作業



滝上町は、ハッカ生産量日本一を誇り、国内の95%のシェアがあります。

和種ハッカ「北斗」を80a作付けしている「とんたんファーム」の佐々木渉さんを訪問しました。29年産は、播種後の低温、長雨の影響で芽出しが悪かったことや、日照不足で草丈が短かったそうです。

8月下旬から刈取り・島立てをし、4～5日天日干しで乾燥させます。

### 蒸留作業



ハッカは、手作業が多いことや、生育が天候に左右されるなど大変手間のかかる作物です。蒸留作業は、9月末に行います。

直径2<sup>尺</sup>、深さ2.4<sup>尺</sup>の鉄製蒸留釜に乾燥ハッカを詰め込み、1時間ほど下から蒸気で蒸し上げて油を抽出します。

29年産の佐々木さんの圃場では、ハッカ油79kgを抽出し、主に「ハッカスプレー」や「ハッカオイル」等として販売しています。

## 平成29年12月20日、六次産業化総合化事業計画の認定証の交付を行いました。

瀬野雅人さん(北見市川東)は、農産物直売所を開設し、栽培期間中に農薬や化学肥料を使用せずに栽培する野菜を、地元や近隣の消費者に直接販売する事業を展開します。

また、直売所内に試食スペースを設置し、こだわりのトマトや玉ねぎと、一般的に販売されている野菜との味の違いを知っていただく予定です。

詳細はこちらを参照してください。「やさしい風 ブログ」

[https://blogs.yahoo.co.jp/yasasiikaze\\_kitami](https://blogs.yahoo.co.jp/yasasiikaze_kitami)

## 六次産業化・地産地消費に基づく 総合化事業計画認定証交付式



認定を受け、ご挨拶する瀬野さん。





## 体にやさしい「スムージー」を提案 「白花豆」を使い、地産・地消に貢献



3種類のスムージーと白花豆

日本政策金融公庫北見支店の高橋さくらさんが白花豆を使ったスムージーのレシピを考案しました。きっかけは、白花豆生産量日本一を誇る北見市留辺薬町温根湯地区の農家の主婦のみなさんが設立した「るべしべ白花豆くらぶ」と知り合い、白花豆の特性、高機能性を知ったところから始まりました。

白花豆は不溶性食物繊維が豊富で、カルシウム、マグネシウム、亜鉛等不足しがちな栄養素を多く含み、味にくせが少ないため、スムージーの既存レシピに工夫を加え、白花豆を追加することで3種類のレシピが完成しました。

## オホーツク地域産農畜水産物を使用した加工食品の共同開発 ～北見藤女子高等学校と北海道美幌高等学校による意見交換会～



【ハッカ蒸留の説明と見学】

次世代を担う高校生が学科(普通系:北見藤女子高等学校と農業系:北海道美幌高等学校)の枠を越えて連携し共同で商品開発を行うため、両校による意見交換会を開催しました。

オホーツク地域の農畜水産物を使用した商品開発を目指したオリエンテーションの他、両校による学校紹介や美幌高校による校内施設見学などで交流を図りました。

商品開発のためのグループ討議では、どのような商品を作り、誰が購入するのかなど具体的な商品の考え方や方向性について発表を行い、「和種ハッカを練り込んだパスタ」や「野菜を使ったアイス」など様々なアイデアが出されました。

次回は高校生たちから出た意見を参考に、食品加工技術に関する研修を行う予定です。



【グループ討議の様子】



【発表の様子】

平成30年度予算概算決定及び平成29年農林水産関係補正予算の概要が公表されています。

下記のホームページをご覧ください。

<http://www.maff.go.jp/j/budget/index.html>

「補助金等の逆引き辞典」もご活用下さい。

逆引き事典



編集後記

1年過ぎるのが年々早く感じます。長男が成人を迎えるので年を取った証拠です。次男に続き、長男も春から家を出て、3人家族となります。家族がバラバラとなりますが、その分年々家族の絆が深まっていると思います。でも、これ以上人数が減りませんように・・・(おの)

編集:農林水産省 北海道農政事務所 北見地域拠点  
〒090-0018 北見市青葉町6-8 北見地方合同庁舎  
TEL 0157-23-4171 FAX 0157-23-5358  
北見地域拠点HP <http://www.maff.go.jp/hokkaido/kitami/index.html>

# 平成29年度オホーツク農業法人セミナー

北見地域拠点は、11月30日に、オホーツク総合振興局・北海道農業法人協会・日本政策金融公庫北見支店との共催により「平成29年度 オホーツク農業法人セミナー」を開催し管内の農業法人・関係機関等から約100名の参加がありました。

セミナーでは、富士通株式会社の砂子講師から「農業分野におけるICTの現状と可能性について」、東京農業大学の小川助教から「これからの農業生産法人の多角化を考える」と題して講演がありました。

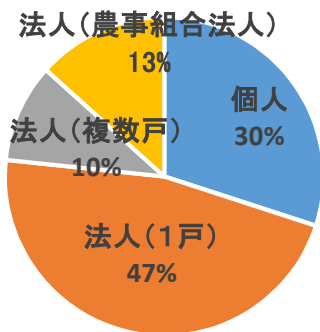
参加者からは、畑作地帯におけるICT等活用の効果の程度や、6次産業化の推進方向等についての質問が出されていました。

また、北見地域拠点は本セミナーにおいて、今後の農業経営の法人化推進の参考とするため、参加された農業者にアンケートを実施しました。

## アンケート結果

### I. 農業者全員に聞きました。

1. あなたの農業経営の形態を教えてください。

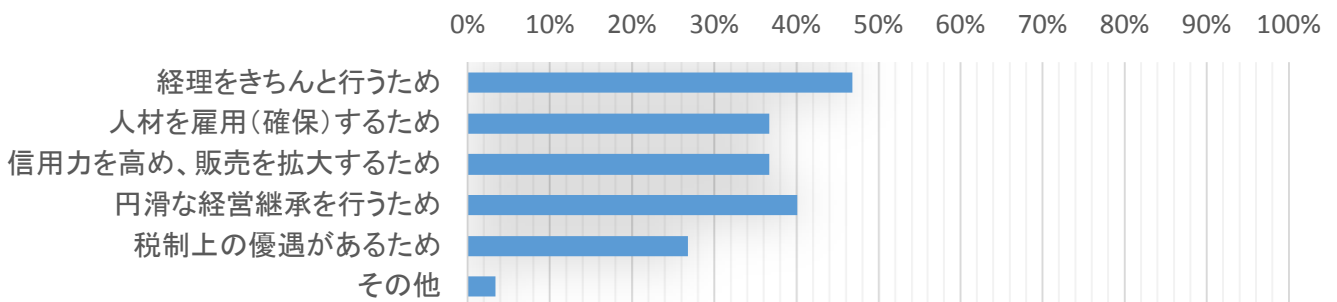


セミナーに参加された農業者の経営形態は、個人経営3割、法人経営7割となっています。

法人化の目的又は経緯では、経営と家計の分離、円滑な経営継承、人材の雇用、販売の拡大などが多い回答となっています。

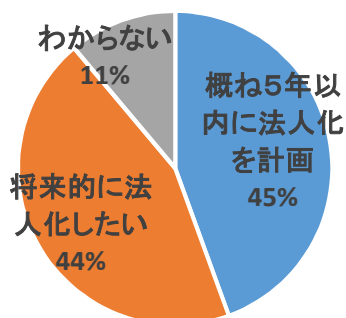
また、その他では、「農地・地域を守るため」という回答もあり、農地の保全や地域社会の存続という課題にも法人化は重要な手段と考えられます。

2. 法人化の目的又は経緯は何ですか。(複数回答可)

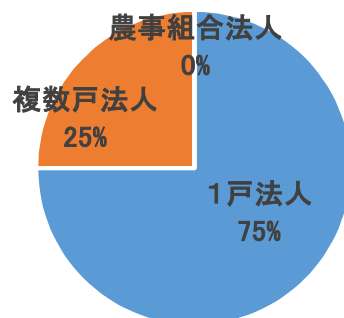


### II. 個人経営の方に聞きました。

3. 法人化への意向を教えてください。



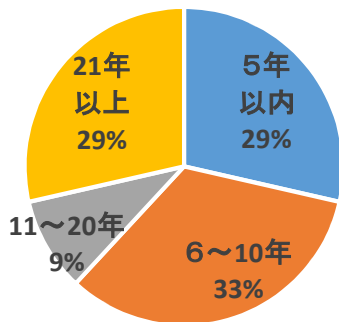
4. 計画又は検討している法人の形態は何ですか。



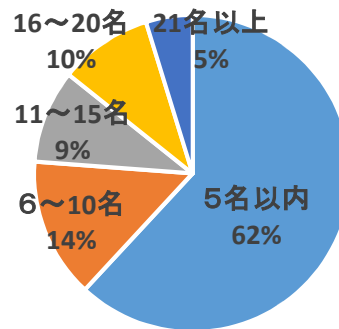
オホーツク地域の特徴として、畑作経営の大規模化が進んでいる状況から、1戸法人による法人化を計画(又は検討)している割合が高い結果となっています。

### Ⅲ. 法人経営の方に聞きました。

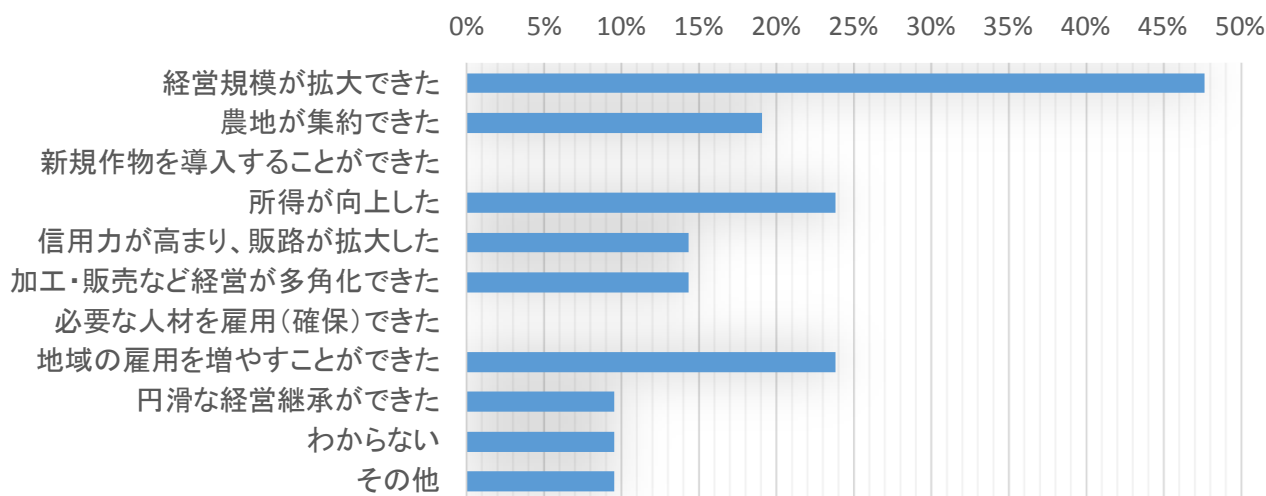
5. 法人化して何年が経ちましたか。



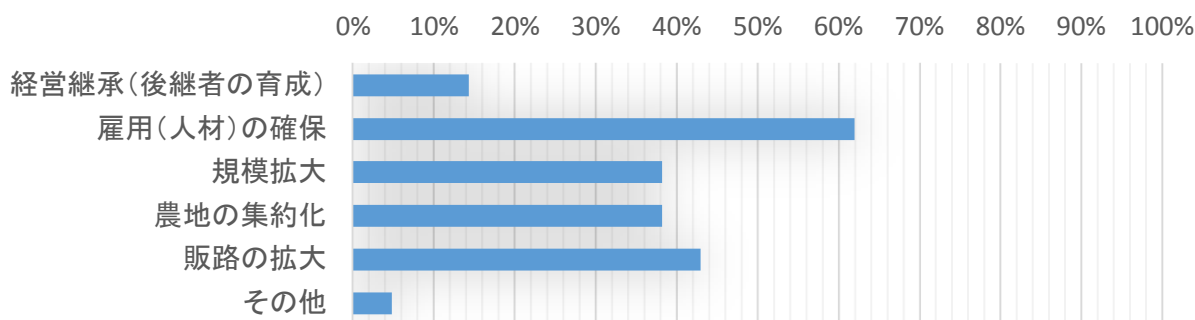
6. 法人の構成員は何名ですか。



7. 法人化によりどのようなメリットがありましたか。(複数回答可)



8. 法人経営の課題は何ですか。(複数回答可)



法人化によるメリットでは、経営規模が拡大できたと回答した割合が約5割といちばん高くなっています。次に、所得が向上した、地域の雇用を増やすことができたと答えた割合が高くなっています。一方、新規作物の導入や必要な人材の雇用ができたと答えた方がいないことから、オホーツク地域の輪作作物(小麦、ばれいしょ、てん菜等)の維持・拡大を図るための法人化と考えています。また、セミナーに参加された若手農業者に聞いたところ、輪作作物以外の新規作物(にんじん、ごぼう、長いも等)の導入が必要との声がありました。

また、法人経営の課題では、6割以上の方が雇用(人材)の確保と答えていることから、雇用者の働くニーズの把握や畑作経営における年間雇用の課題等を地域で解決する方策が求められています。

※これは、本セミナー(平成29年11月30日開催)に参加された農業者30名のアンケート結果と、参加者から発言のあった内容から見てきた法人化の現状と課題を概要にしたものであり、今後の法人化推進の参考とするものです。